

令和4年度富山県文化審議会（第2回）

日 時：令和4年10月31日（月）

午前10時00分～11時30分

場 所：富山県民会館401会議室

■議事

【会長】

本日は前回に引き続きまして、「新世紀とやま文化振興計画」に係ります、後期重点施策の策定についてご審議いただきます。

特に重点施策に対するご意見や盛り込むべき取り組みをご提案いただきたい。

それでは事務局からお願いいたします。

<事務局説明>

【会長】

ただいま、後期重点施策の策定などにつきまして事務局から説明がありました。

皆様方からご意見、ご提言、あるいは新たな具体的な施策についてご意見いただきたい。

【〇〇委員】

文化というものは、その土地との関連性がとても重要。富山県にもいろいろな地域があり、大島絵本館では土地のご婦人たちが大変熱心に集めたり、展覧会を組み立てたりしていて今でも継続していると。それぞれの地域で、住民の方々がやろうとしていることを助けてあげるといことが、非常に重要。

それから、全国的に見ると、海外と比較して日本は、演劇がそれほど活発ではない。ところが、富山県には利賀村のSCOTがある。彼らの文化活動に小学生や中学生から触れていけるようにすると、富山ならではの文化政策というものが実現していくのではないか。子供に難しすぎたり、あるいは若い人たちに毒があったりする部分もあるが、鷹揚にとらえていくのがいいのではないか。

その土地固有に既にあるお祭りなどの様々な文化行事、資源、財産、あるいは、そういうものを見直しながらですね、活発化させる。そして、その上で、足りない部分を導入す

るということをお考えの上で文化施策を進めるべき。

また、北陸三県は各種統計においても文化的に充実しているし、ウェルビーイング、幸せ度でも非常に全国で見れば高いポイントの地域である。それをもっと助長するような方向でお考えいただければ、素晴らしいのではないかと思う。

【〇〇委員】

事務局への質問ですが、S T E A M教育等を、小中教育に取り入れるということですが、具体的に取り組みのイメージはおありでしょうか。

【事務局】

具体的には難しいが、教育の要領、大綱の中で芸術という分野を教育に取り入れる方向にある中で、こちらでできることですが、例えば美術館や舞台芸術にお子様方が直接触れる機会、授業の中でも触れる機会を増やしていくことが大切だという思いです。

専門的には言えないが、そういった活動を取り組みが増えていけばということで後期重点施策お書きいたしました。

【〇〇委員】

S T E A M自体はハーバードで提唱されて、サイエンステクノロジーやmathematicsの中にその的なアーツ的な感性を組み込むことで、人間というものに即した、社会を作り上げようというものであるが、これをどのように教育の中に入れるかということが大事。

S T E A M教育の概念の普及は、大企業も取組みを進めているところであり、社会人に対するアプローチも大事である。富山県には、既に文化産業、例えば工芸産業や観光産業など富山にある文化を背景・基盤として成立している。新しいものを生み出すというよりも、実際目の前にあるものに加え、例えばS C O Tのように地元化されているものや自分の地域に関心を持ち、それが企業や、仕事など通常は関係ないと思われるものに落とし込んでいくと、富山発のものが全て富山の文化産業になるのではないか。

そしてそのような事業に対するプロデュース感覚が大事。例えば高岡銅器における能作のような時代の変わり目を演出し、それが一つの企業じゃなくて、富山県全体に一種のプロデュースシステムを、県の方で、やはり考えられるといいのではないかと思う。

例えば美術館でいえばコレクションに対するビジョンの変化を大胆に全県的に誘導するようなことをもっと盛り込んでいただきたい。

【〇〇委員】

アンケートにもあるように、コロナにより舞台芸術は、担い手の面からも、鑑賞の面からも、大きな打撃を受けている。今後の担い手をどうしていくかが大きな問題である。

アンケートでは、子供たちへの鑑賞機会の確保が強く出てきている。利賀や黒部では今年、親子で見られる音楽劇を行い、子ども連れのお客さんに多数来ていただいたところであるが、子供たちの方が面白がったり真似をしたりと、素直に受けとめていたようである。子供には難しいとか、大人向けだと決めつけるのではなく、連れて行く大人、あるいは教育現場の方たちが、子供たちの感性を信じて場を広げていくことが大事である。

やはりコロナではどうしても制限される方向にすすみがちであるため、生のものに触れる機会の確保については積極的にやっていただきたい。

また文化は、裾野を広げる、支えるという部分は大事だが、やはりトップレベルのもの、自分が憧れ地域の誇りになるものは、大きな役割を果たす。富山県のそういったもの伸ばす、その両面でやっていくことが重要である。

【〇〇委員】

県民芸術文化祭では、茶道連盟と美術連合会との連携が大変よかった。今後も継続をお願いしたい。また、団体所属以外の作家さんの参加やコラボをお願いしたい。また県民芸術文化祭の位置付けを見直し、規模を拡大したりとか、様々な分野の参加を促したり、またコラボ企画は文化を広めていく点では大変重要な部分であり、そういったものを増やすことも検討していただきたい。

また子供たちへの普及というのは大変大事。例えば14歳の挑戦では14歳に限らず高校生に対象を広げることを県の方で企画してみてはどうか。県の美術館での小学生の美術館見学ツアーの取り組みなど、学校教育の中に位置づけることが大事。

あと、立山と白山と富士山の三霊山について山文化というものを位置づける必要がある。

【〇〇委員】

アンケートでは文芸が－27.4と本県における文化活動が活発ではない結果となっている。美術や舞台芸術などビジュアルも非常に大切に魅力的な分野のように思いますが、一方で、ビジュアルではなく読んで理解して作るという文芸の活動というのも非常に大切。ごく短いものでもよいので詩や俳句を作る、落語に挑戦するなど、創作に対する意識を養うような工夫が重要。

【〇〇委員】

富山はその文化と自然が融合した特別な風土、土地の固有性っていうのを持っている場所だと感じている。工芸、自然、食、現代芸術、富山県美術館それから、下山芸術の森の入善にある発電所美術館なんかも、自然、産業と芸術が組み合ったもので、県外からたくさんの方が、熱心に来られている。

中にいると見えにくい素晴らしさを発信し、富山県民の方々に自信と誇りを持てる文化だということを感じていただき、それを支えていただくことが必要。知る人ぞ知るといような状態から、県民全てが知っているという方向に移っていけばいいと思う。ただ、多元主義の社会で、多様な価値が併存しているので、それぞれの熱心な需要者がリピーターとなり、支えていけるような文化振興のあり方っていうのが考えられればよい。富山には素晴らしい資源があるので、発信の方法を考える必要がある。

アンケートを見ても入場料が安くとあるが、県民の日に文化施設が開放されているが、認知されていない。無料の日があるのに、知らないというのはすごくもったいない。

【〇〇委員】

前回の会議でもお話させていただいた、子供人材育成、国際交流などの視点からの意見は、今回の施策の中には盛り込まれている。

とやま世界こども舞台芸術祭では、海外9団体、国内10団体、県内を含め約70団体1,500名が集う大きなフェスティバルとなりました。舞台芸術を通して、富山にいながら海外の人々と共に演じ鑑賞できる機会となった。また舞台上で演じる子供たちに、演者と観客が一体感と感動に包まれるという体験を与え、その拍手とともに、達成感を感じてもらえる機会となったと思う。やはり子供たちにこうした機会を与えてあげたらいいなと感じた。

課題としては、出演・参加や鑑賞は夏休み中期間であっても、やはり平日は親が付き添えないので難しいとか、コロナもあり学校単位でもなかなか難しい。やはり教育現場との連携がされていくと、子供たちの本来の教育と芸術が結びつく姿になるのではないかなと思いました。

あとはウィズコロナ、アフターコロナを見据えて、やはり生に勝るものはないながらも、オンライン配信や、アーカイブの利用が進んだ。これらも学校教育と結びつけ、人材育成面でもオンラインを積極的に活用する方法を検討してはどうか。

また、富山県の芸術文化アドバイザー事業を学校教育の中でも活用していただけたら良いと思う。

【〇〇委員】

高校生の文化活動は、文化を継承し発展させることにつながると思う。

今回のアンケートも踏まえ、後期重点施策に盛り込んでいただきたいことは、是非とも高校の文化部でも、専門的な指導の確保、指導者の確保をお願いしたいということです。運動部ではスポーツエキスパート制度により、多くの指導者の方が部活動に指導されておりますが、文化部についても1年を通して継続的に専門的な指導ができる指導者、アーティストエキスパートのような位置付けの、人材の充実、育成に取り組んでいただきたい。

【〇〇委員】

旅行者の大きな楽しみは、その土地の自然、文化歴史だと思います。やはり、文化と観光の親和性は高いのではないかなと思っています。

文化施設においては、内部公開、限定公開など特別な体験を通じ、さらなる魅力向上・発信にも努めていただきたい。また今後増加が見込まれるインバウンドへの対応、具体的には、多言語解説・案内、キャッシュレスなどに取り組んでいただきたい。

またアルペンルートには県外・海外から年間90万人ぐらいの方が来られる。自然だけでなく、立山の文化的な背景、立山信仰や電源的な開発の歴史など知っていただきたいと思う。立山博物館、カルデラ博物館などの施設を核・中心とした文化振興、観光振興、そして地域の活性化にも努めていただきたい。

【〇〇委員】

食文化に関しては、最近はお祭りなど大分減り、かつては、家にお客さん呼んで、御膳でというような食文化・習慣が伝わらなくなっている。

また食育は、子供たちの人間形成に重要で、日本の和食などの食文化を親子で一緒に楽しめるような体験ができる機会があればよいと思う。

世界こども舞台芸術祭は本当に素晴らしかったので、食についても日本の食文化を世界に伝えられるようなものがあれば面白いのではないかと。

【〇〇委員】

今回のアンケート調査は回収率が低く、県民の文化への関心が低いのではないかと不安を感じる。文化に関し、地域での子供たちの関わりを考えたときに、決して学校だけには頼ってはいけないし、お父さんお母さんだけに任せてもいけない。具体的に求められる役割を示してあれば、当事者意識を持つなど、誰がどのような支援を行うか興味を持ってもらえるのではないかと。

美術に限らず、音楽やいろんな面での教養も含めて、大きな幅広い興味関心を持った子供たちになってほしいと思う。

【〇〇委員】

経済活動にも、文化的な視点は必須だというふうに考えております。経営者は社会人教育アプローチの窓口の一つとなる。富山県経済同友会において文化プロジェクトを実施しておりますが、これからも大いに、県の施策と、文化、我々の文化企画、それから広報などで連携をお願いしたい。

アンケートでは、文化活動できない理由の中に「時間がない」が、一番に挙げられているが、働き方改革とも大いに関係しているのではないかと。一つの課題として持ち帰りたい。

もう1点、国際的、国際会議、国際的なセッションが、復活しつつある。G7、教育相会合もその一つであるか、ここにも大いにこの文化的な視点、豊かな富山を盛り込んでいただきたい。MICE、コンベンションの中で、文化プログラムが求められている。特に文化施設などを開放し、ユニークベニューの中で、この文化プログラムを盛り込んでいくことが求められる。富山県美術館など素敵な県有施設の一般開放は難しいとしても、スペシャルで、クローズドな企画に開放、あるいは連携をすすめてはどうか。

【〇〇委員】

富山県の方は、富山にある素晴らしい宝についてあまり認識しておらず、他の県の方から言われて初めて再認識をします。また文化というのは、環境と一緒に守り続けていかなければいけないし、耕し続けていかなければならない。そしてお金もかかるものという、そういう認識を持っておられる方は少ない。ですから、素晴らしさを県民に周知していかなければならない。

例えば、富山県の展覧会に、東京から来るとか、そういうようなくらの展覧会を引っ張ってくるなど、新幹線ができたおかげで、日帰りでいろいろな公演に行く機会が増えてるので、女性、そして若い世代、子供への、事業をぜひ進めていっていただきたい。

特に、子供たちに直接体験等を増やしていただくとともに、例えば学校教育に取り入れるプログラムや、遠足における食事場所などの管理面での手段も考慮してはどうか。

【会長】

最後になりましたが、私の方から1点、重点施策の(1)の③、技術スタッフ、キュレーター等の人材の育成について、各美術館・博物館にはボランティア制度があるが、ボランティアのかかわり方や責任についてお教えする制度を整備されたい。

学芸員の方が少なく、運営等に困っている一方で、富山県民には優秀で一生懸命頑張ろうという真面目な方々は多い。そういった方々にボランティアとして美術館・博物館の展覧会の支援とか資料の解析にも協力してもらえれば良いし、これは県民の側からみても、富山の文化へ貢献するという生きがいづくりにも繋がる。さらにボランティアを通じてPRに繋がるのでご検討いただきたい。